長野県社会福祉士会 NEWS

第187号
2021/11/1

発　行▶公益社団法人長野県社会福祉士会
会 長　上 條 通 夫
事務局▶〒380-0836長野市南県町685-2
長野県食糧会館6F
編　集▶広報編集委員会
発行部数▶2,400部

TEL▶026-266-0294　FAX▶026-266-0339　E-mail▶info@nacsw.jp　HP▶https://nacsw.jp/

contents

巻頭言　社会福祉士と研修
～資格は学びの世界へのパスポート ……1
「学ぶことを止めない」ための取り組み ……2
2021年度 社会福祉士実習指導者講習会 ……3
社会福祉士養成プロジェクトの取り組みについて …4～5
信州ぐるっと!! ……5
特集　社会福祉士実習指導者に聞く ……6～7
リレーエッセイ ……8
南信地区学習会 ……8
編集後記 ……8

巻 頭 言

社会福祉士と研修　～資格は学びの世界へのパスポート

伊　藤　芳　子（理事・生涯研修センター運営委員会委員長）

「みなしごを正しくさばき、やもめを弁護せよ」（旧約聖書）　この言葉に出会った私は福祉に興味を持ち、社会福祉学科に進学し、そこで社会福祉士という国家資格ができることを知りました。しかし、自分には新しい資格は関係ないと、受験資格も取らぬまま卒業、地元の町役場に就職し、程なく福祉学科を出たということで福祉の係に配属されました。

職場は当時、福祉の専門職はおらず、福祉課題を抱える住民の相談も保健師が一手に引き受けていました。ソーシャルワーカーとして何をしたら良いかわからず困っていた私を、保健師は家庭訪問に同行させてくれ、県のケースワーカーや病院の医療ソーシャルワーカーらは面接への同席や助言をしてくれました。それでも手探り状態は続き、自分がソーシャルワーカーだと思えず、学ぶ機会も見いだせず、行き詰まっていきました。

そんな時、周りのソーシャルワーカーが社会福祉士を名乗り、仲間と学び合っていることに気がつきました。自分も学びのチャンスが欲しい、仲間になりたいと思い、まずは通信教育を始めました。そこでは学び直す機会を得て受験資格を得ただけでなく、今でも支えてくれる仲間に出会うことができました。

社会福祉士になってからのある日、担当していた方の別居家族とやっとの思いで電話が繋がり、話していた時のことです。ご本人はあんなに大変な状況なのにと思いつつ。私が投げかけたある言葉にそのご家族は強く反応しました。とても文字にできないような汚い言葉で私を罵倒してきたのです。その言葉を聞いて私はハッと我に返り、「（電話相談を）失敗した。苦情がくる。」と思いました。電話を切ってすぐ、落ち込みながら、ある関係機関に報告し対応を相談しました。話を聞いてくれたのは社会福祉士でした。話しているうちにバイスティックの原則が浮かんできて、同時に罵倒された原因に気がつきました。ああ、私の投げかけた言葉は相手を審判し、私の感情をぶつけただけだった、だから相手は反応したのだと。私は社会福祉士として学んだバイスティックに救われ、話を聞いてくれた社会福祉士に助けられました。

友人が社会福祉士に合格した時、「私は学ぶためのパスポートをもらった」と語っていました。私自身も社会福祉士資格を取得したことで社会福祉士会主催の研修はもちろん、多くの学ぶ機会と、ともに学ぶ仲間に恵まれました。学ぶことで自分が何をすべきか少しずつ分かり、ソーシャルワーカーだと思えるようになり、学んだことやともに学んだ仲間に助けられた毎日となりました。

今、振り返って思うことは、住民や同僚らに加え、社会福祉士になったからこそ得られた仲間と、学びの力にどれだけ支えられていたかということです。この場を借りてお礼をお伝えするとともに、これからは、現場で頑張っている会員や、いつか現場で頑張りたいと思っている皆さんに学び励まし合える機会をつくっていくことに関われたらと思っています。

その人らしさを支え、笑顔をつなぐ働きができるよう、社会福祉士という学びと仲間を得られるパスポートをともにフル活用していきましょう。

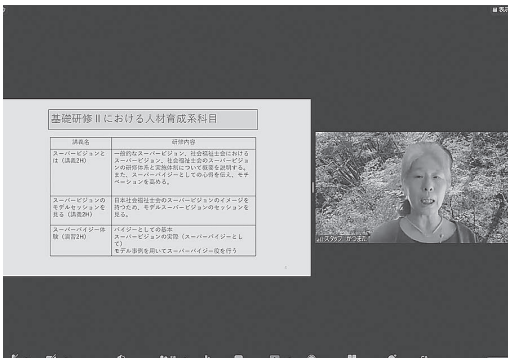
「学ぶことを止めない」ための取り組み
～ 2021年度　研修開催状況 ～

生涯研修センター運営委員会では、全てオンラインによる開催ではありますが、昨年度、開催できなかった基礎研修Ⅱ、基礎研修Ⅲをはじめ、基礎研修Ⅰ、実習指導者講習会を開催しています。基礎研修は日程の半分を終えました。定員を超える研修会や、他県会員の参加もあり、受講者の「今だからこそ学びたい」との意欲を感じつつ、研修会を開催しています。

会員の多くが福祉現場や医療機関など対人援助業務に従事し、今も圏域外や多くの人が集まるところに出向くことを制限されている方もいます。オンラインでの研修開催は受講者にとっても講師・スタッフにとっても大きなチャレンジではありますが、オンラインだから参加できたとの声もいただくなか、本会にとって新たな可能性を生み出す機会ととらえ、それぞれが取り組んでいます。

日本社会福祉士会e-ラーニングの活用

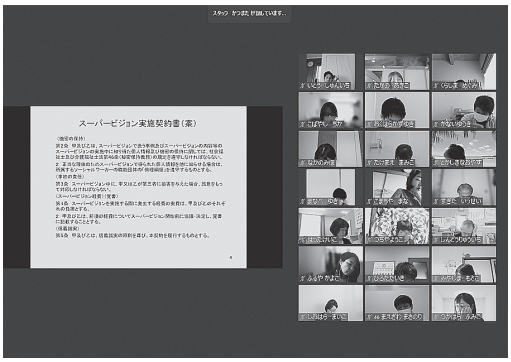
広報誌第184号（2021年５月１日発行）でお知らせしたとおり、本年度からｅ-ラーニングを視聴できるようになりました。基礎研修Ⅱ、基礎研修Ⅲでは一部科目の講義にｅ-ラーニングを活用したプログラムとしました。今後も有効に活用しながら研修を開催していきたいと考えています。



Zoomのブレイクアウトルームによるグループワーク

集合研修では講義だけでなく、数人のグループに分かれてのグループワークや、１対１でスーパービジョンを体験する等の演習があります。画面ごしにどのようにワークが行われるのか不安でしたが、気負わずに参加できたとの声もきかれ、積極的に参加されており、活発なグループワークが行われています。

講師も投票、ホワイトボードといったZoomの機能を活用しながら受講者が参加しながら学べる工夫をしています。



今 後 の 課 題

いくつかの研修をZoomで開催したことで、オンラインによる可能性の広がりが見えてきたと同時に、以下のように新たな課題も見えてきました。

●受講者・受講場所の環境の違い

オンライン開催は、自宅や職場等、さらには県外からも参加でき、参加している場所は広範囲に及んでいます。また、通信環境や使用端末などもそれぞれで、各自が学ぶ環境は一人ひとり違っています。慣れた環境で研修が受講できる反面、時には接続できないなど不都合な状況が起こってしまいます。

●オンラインへの取り組み

「オンラインは苦手」という方もいるのではないでしょうか。また、パソコン等の機器やネット環境を整えなければなりません。そのため、参加がしにくくなってしまった会員もいるのではと思われます。

●仲間づくりへの工夫

これまでは顔を合わせ、意見を交換し、名刺交換や雑談もし…そんな中で、受講者同士がつながりをつくってきましたが、オンラインでは難しい部分もあり、どう補っていくか工夫が必要です。

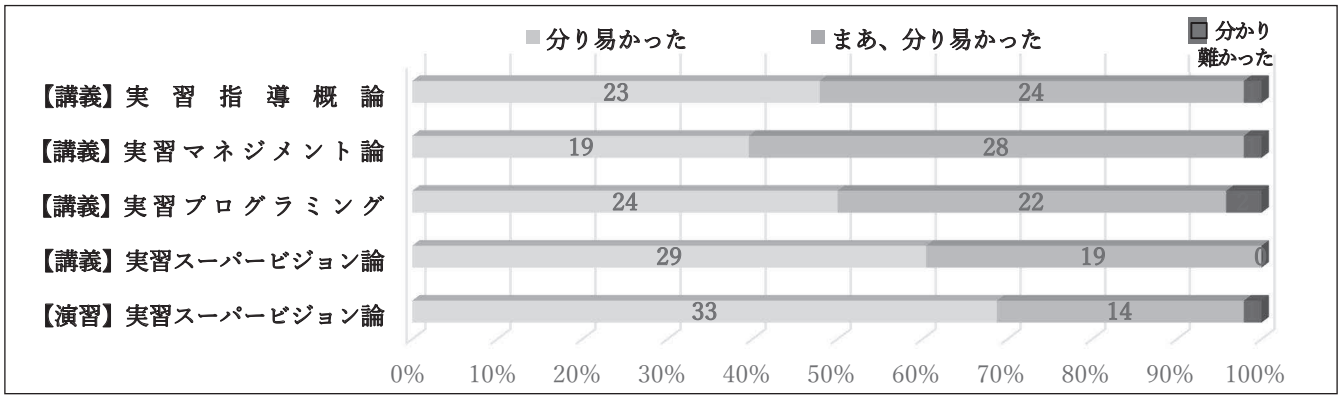
来年度以降の研修をどのような方式で開催できるのかは未定ですが、ピンチはチャンスととらえ、より多くの方が研修の機会を得られるよう今後も工夫していきたいと思います。

2021年度 社会福祉士実習指導者講習会
― 県外者13人も含め過去最高の受講者数！ ―

2021年度の社会福祉士実習指導者講習会は、７月３日㈯・７月４日㈰に開催した。
オンラインでの講習会のためか、定員40人を大幅に超える61人が熱心に受講し修了した。

- □ **受講者　61人（男性：28人、女性：33人、会員：32人、非会員：29人）**
- □ **回答者　48人（回収率：78.7%）**

1　講義を受講された感想＜集計結果＞



2　科目毎の感想等について

【講義】実習指導概論

◇　地域共生社会の実現のためには、次世代育成が重要であることを改めて学びました。また、自分自身、『伝えるべき社会福祉士像』が明確化されていないことを痛感しました。

◇　オンライン研修ということで、わくわくした気持ちで最初の講義を受けさせていただきました。学生のころに立ち返ったような内容だったので、非常に勉強になりました。

【講義】実習マネジメント論

◇　実習生を受け入れるにあたっての職員間の共通認識がまだ弱いと感じる部分があるため、職員に向けた働きかけが必要であると感じた。

◇　普段の業務とは別に組織におけるマネジメントについての研修等の経験があまりなかったため、今後ともより学びを深めることが必要だと感じました。

【講義】実習プログラミング

◇　自らのソーシャルワーク実践を科学的に証拠立てて「見せて」「伝承できる」社会福祉士であれという言葉を胸に、通常業務の傍らプログラミングに取り組むことは大変ですが、チャレンジしたいと思いました。

◇　ソーシャルワーク像の伝達とソーシャルワーク実習という目的が果たせる様にプログラムを作成するのは難しいなと感じた。社士会等のネットワークを活用していくことが大切だと感じた。

【講義】実習スーパービジョン論

◇　実習スーパービジョンの具体的方法論を学び、実習生に対して与える効果について学んだ。

◇　スーパービジョンについての用語としては理解があったものの、より具体的な機能について、自身の傾向などを確認できてよかった。

【演習】実習スーパービジョン論

◇　ケースワークやグループワークを通して実習スーパービジョンを学べました。他県の方々とオンライン研修でしたけど、交流ができて大変よかったです。

◇　初めて顔を合わせるもの同士が、ズームで…となると気まずい感じもありましたが、演習以外の話もお聞きできたりして、とてもためになりました。

3　オンライン研修について

◇　遠くへ出向くことなく貴重な講義と研修を受けられてよかった。参加人数が60名程度で多かったのは励ましとなってよかった。

◇　社会福祉士会の研修等については、移動にかかる時間、経費などの負担がないため、オンラインでの開催は大変有効だと思います。

◇　Zoomを通して話をすることがとても緊張した。しかし、同じグループの人たちの志の高さや自分たちも一緒に勉強していくという寄り添う気持ちが伝わり、非常に充実していた。

4　研修全体の感想等について

◇　長野県の社会福祉士会とはこれまではあまりご縁がありませんでしたが、研修を受講させていただき、本当に勉強になりました。ありがとうございました。

◇　愛知県より参加させていただきました。長野県で活躍されている社会福祉士さんと交流でき、とても励みになりました。

◇　研修を通して、ソーシャルワークの業務の中に、組織等のマネジメントの概要などを学ぶことができました。半面、さらなる自己研鑽が必要だと改めて感じました。

社会福祉士養成プロジェクトの取り組みについて

平成30年度より社会福祉士の実習受け入れを検討する「社会福祉士養成検討プロジェクト」が発足し、社会福祉士養成における実習の現状・課題を把握する取り組みや、将来を担う学生へ社会福祉士の魅力を発信していく取り組みを進めています。

現在７名のプロジェクトメンバーと１名の担当理事により、以下３つの取り組みを進めていますので、ご紹介させていただきます。

1 実習指導者座談会の開催

実習指導者座談会は、本プロジェクト最初の取り組みとして昨年からオンラインで開催しています。座談会には、実習指導者として業務を行っている方だけではなく、これから実習指導者の業務に就く方や、養成校の教職員、実習指導に興味を持つ会員が参加しています。

今年度は７月31日㈯に座談会を開催しました。本プロジェクトの取り組みを説明、共有後、コロナ禍での実習受け入れについて、実践報告をしていただきました。その後、全体とグループに分かれて、実習受け入れに関する悩みや、他の実習指導者の取り組みを共有しました。参加者アンケートの結果も好評でした。

実習受け入れ先の拡充や未来の福祉人材確保を目指し、座談会は今年度第２回目を計画中です。皆さんの参加をお待ちしております。

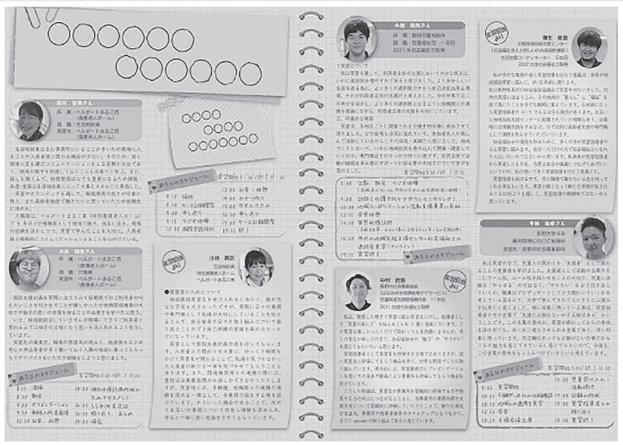
2 社会福祉士実習受け入れ拡充のためのパンフレット作成・発行

「社会福祉士を目指す学生の実習先と実習指導者の拡大を図ること」を目的としたパンフレットを作成しました。

来年度より社会福祉士養成課程の新カリキュラムがスタートし、学生は２か所以上の事業所での実習が義務づけられます。また、社会全体で人材確保が課題となるなか、事業所としても将来を担う学生へ社会福祉士の魅力を発信し、人材確保へつなげる努力も必要となっています。

パンフレットでは実習生や実習指導者の声を掲載し、実習から就職に結びついた方もご紹介しています。このパンフレットを通して、実習の意義や魅力を皆さんに発信し、今後、受け入れ事業所や実習指導者が増えていくことを期待しています。

【パンレット　案】



3 社会福祉士魅力発信事業

将来を担う中高生など若者たちに社会福祉士の資格やソーシャルワークの仕事内容を紹介し、進路を考えるにあたっての一つの選択肢として“社会福祉士”を目指してもらえるような魅力を発信していきたいと考えています。現時点では、長野県社会福祉協議会の「福祉で学ぶ！訪問講座（長野県委託事業）」について、令和４年度実施要領の中に、県内の主に中学校や高等学校の福祉教育の授業内で社会福祉士を紹介できるような内容を入れていただけるよう、検討を進めているところです。そのほかにも、社会福祉士の魅力・ソーシャルワークの魅力を発信していける機会を模索中です。

会員の皆さんからの魅力発信の提案もお待ちしております。

本プロジェクトの取り組みについて、会員の皆様からのご意見やご要望、アイデアを随時お受けします。また、一緒に取り組んでいただけるメンバーも大募集中です。本プロジェクトに入っていただける方がおられましたら、長野県社会福祉士会事務局までご連絡ください。引き続き、皆様と一緒にそれぞれの取り組みを進めていきたいと思います。ご協力をお願いします。

信州ぐるっと!!　～県内の特色ある福祉活動を紹介～

「特定非営利活動法人 共に歩む会」を紹介します

大　蔦　智　子（長野県地域生活定着支援センター）

長野県地域生活定着支援センターは、矯正施設を退所する高齢者や障がい者の社会復帰に向けた支援をしています。

飯田市に拠点を置く「共に歩む会」は、中国帰国者の支援を目的として平成24年に設立。その後、中国帰国者の高齢化に対応すべく、平成27年に認知症対応型通所介護「羽場赤坂デイ」を開設。さらに平成29年には訪問介護「羽場赤坂ヘルパーステーション」を開設し（現在閉所中）、中国帰国者だけではなく、幅広く対応できる体制づくりを推進。併せて、中国語に対応可能な人材育成を草の根で進めた結果、その人的パワーが地域に根差しつつあるとのことです。

今回私どもが協力していただいたケースは、知的障がいがあり、日本語がほとんど話せず、片言の単語や身振り手振りで辛うじて意志疎通できる、中国帰国者２世の方でした。

帰住予定の地域のあらゆる機関に相談しましたが、返答はいつも「空きがない、資源がない」うんぬん。対応の消極性を指摘すると「このケースばかりやってるわけではないので」。引いてばかりはいられず食い下がると、「どうしてもこの人を地域に戻さなければいけないのか？！」と排他的な返答。もはやこれまでか…と途方に暮れたとき、会員を通じてつながったのが「共に歩む会」でした。公的予算が縮小される逆境においても、中国帰国者が抱える構造的で根深い課題と向き合い続ける、その屈強な意気に「福祉もまだまだ捨てたもんじゃない」と思わせていただきました。出所から１年。紆余曲折を経て今、ご本人は手厚い支援体制の下で在宅生活を送っています。

特集

社会福祉士実習指導者に聞く

「社会福祉士実習の現状と課題について」

北信地区

氏　名：児　島　麻　美
所　属：社会福祉法人 長野市社会事業協会　養護老人ホーム尚和寮

＜社会福祉士養成実習の受け入れ状況＞

今まで所属してきた事業所において、年間１～３名ほどの実習生を受け入れてきました。コロナ禍において、昨年度は実習予定であった２名の学生が教育機関の判断により実習中止となりましたが、今年度は教育機関から出されているガイドラインに沿い、きちんと対策を行っているか判断したうえで実習受け入れを行い、実習期間中は職員と同レベルの感染対策を行ってもらいました。

＜実習指導者として心がけていること＞

事業所内の各専門職からの講義や併設するデイサービス、特別養護老人ホームでの体験を取り入れるとともに、当法人の他事業所の実習指導者と連携し、実習生の希望に応じて種別や分野を超えた事業所での体験や見学の機会を持てるよう設定しています。実習生の幅広い視野を養い、多くのことを学べる良い機会になっていると感じています。

＜実習指導者の立場から見る課題＞

実習生それぞれで異なる知識量や経験による理解度を見極めながら、実習プログラムを遂行することに不安や戸惑いを覚えることも多くあり、また通常業務に加えての実習指導は業務的な負担が大きいと感じることもあります。

＜今後の目標や展望＞

当法人は未就学児から高齢者までライフステージに応じた多くの事業を展開していますが、各事業所の実習指導者が集まり実習生受け入れに際しての共通プログラム作成や情報共有、新カリキュラムの勉強会などを行い、見聞を広げています。当事業所、当法人での実習経験が資格取得や福祉職入職へのさらなるモチベーションとなることを願い、日々研鑽を積んでいます。

東信地区

氏　名：渡　辺　香　里
所　属：社会福祉法人 依田窪福祉会　特別養護老人ホームともしび

＜社会福祉士養成実習の受け入れ状況＞

施設の生活相談員としての社会福祉士養成実習では、座学として学んできたことを踏まえ、施設内外との連携をフィールドワークとして実際に経験することが、ソーシャルワークの理解を深めるには一番かと考えています。しかし、現在のコロナ禍において、各事業所カンファレンスやボランティアの受け入れ、ご家族など外部との関わりも中止や制限をされており、生活相談員としての本来の業務を実際に体験・学習してもらうことが難しい状況です。

＜実習指導者として心がけていること＞

施設内での他職種業務の見学や法人内事業所の見学を積極的に取り入れ、多くの職員やご利用者と対話する機会をつくり、多様な価値観に触れ、コミュニケーションの実践、社会福祉士としての価値観、倫理の理解が深まるよう努めました。またその中で、実習生自らが疑問や課題を見つけ、学びにつながるように心がけていました。

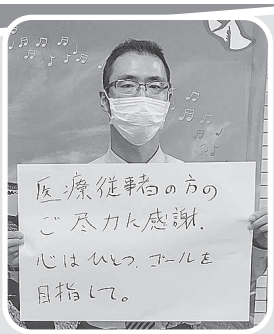
＜実習指導者の立場から見る課題＞

コロナ禍の実習で、多職種、他機関との連携・調整を計画的に行えず、実際、期間中に予定していた研修や会議、見学がコロナの影響で何度も中止、延期になり、連続性をもった学びに繋げることが難しかったです。実習生に対しては、ケアプランの作成を最終目標にせず、校外での学びの機会を活かし、施設内外について広く実習に取り組んでもらいたいと思っています。

＜今後の目標や展望＞

今回初めて実習指導者として指導を行いましたが、至らない点が多々ありました。自分自身の知識不足を痛感するとともに、課題にも書かせてもらったとおり、コロナ禍という不測の事態において施設側の実習受け入れの態勢についても考える機会となりました。以上を踏まえて今後もより良い実習指導を行えるように研鑽していきたいです。

中信地区



氏　名：仲　林　　啓
所　属：松本市役所

＜社会福祉士養成実習の受け入れ状況＞

以前は「地域包括支援センター」と「福祉事務所」のいずれかを選択してもらい、受け入れていましたが、現在は「福祉事務所」のみです。受け入れ条件（実習生の住所地等）を定めているため、毎年度申し込みがあるわけではなく、令和３年度は７月に１名受け入れる予定でしたが、本人事情（コロナウイルス感染によるものではない）により辞退されています。コロナ禍の受け入れ判断は、松本市新型コロナウイルス感染症対策本部会議の方針に基づくことになります。

＜実習指導者として心がけていること＞

実習生（相談の段階で断った件も含め）の多くは福祉事務所の実習イメージが持ちにくいように感じます。福祉事務所の所掌事務が多岐にわたっており、複数の課が実習に関わるため、実習生による実習計画作成の段階から詳細な事前面談を実施し、実習スケジュールの調整をしています。

＜実習指導者の立場から見る課題＞

さまざまな法律が施行されたことにより、法令で定められている市福祉事務所の所掌事務以外の事務等（介護保険法、障害者総合支援法、各虐待防止法に定められている事務等）を兼ねている市福祉事務所も多いと思います。権利擁護に関する業務と福祉事務所としての業務（実際には混在することが多い）、どちらを行っているかを都度、理解してもらうことが必要だと感じています。

＜今後の目標や展望＞

教科書を除くと、実習以外の方法で福祉事務所の業務を直に学べる機会は少ないと思います。行政職を目指す学生が一定数あるなかで、実習を通して福祉事務所の実際とやりがいについて理解を深めてもらえる実習を提供し、実際の就職につなげることができるようしていきたいと考えています。

南信地区

氏　名：毛　利　公　子
所　属：伊那市社会福祉協議会

＜社会福祉士養成実習の受け入れ状況＞

伊那市社会福祉協議会では例年２名程度の実習を受け入れ、４名の実習指導者が持ち回りで担当しています。コロナ禍となった昨年度は学校側の判断で実習中止となり、受け入れはありませんでした。今年度は受け入れ予定２名のうち、１名は感染拡大に対する実習生の判断で中止され、１名が実習を終了しました。事業の中止・内容変更等で例年どおりに経験できないこともあった一方、社協としてコロナ禍での活動を模索し実践する現状を体験していただけたと思います。

＜実習指導者として心がけていること＞

実習生によって、実習プログラムの中から学び取ることはさまざまです。その方ならではの気づきを大切にしながら、実習に来たからこそ得られる新たな視点や学びを少しでも多く持ち帰っていただきたいと考えています。また、業務の中で他機関も含めた多くの関係者や住民の方と関わる姿を見ていただき、ネットワークの大切さと、社会福祉士を支えるネットワークとしての社会福祉士会の意味も伝えるよう心がけています。

＜実習指導者の立場から見る課題＞

近隣には実習受け入れが可能な事業所があまり多くなく、遠方の事業所で実習せざるを得ない学生さんもいると聞きますので、実習指導者の養成と受け入れ事業所の増加は一つの課題だと思います。また、実習直前や実習中にモチベーションが十分でなく、実習を中断した方が近年複数名おられました。若い学生さんには難しいことかと思いますが、実習は多くのご利用者や職員の協力を得て行いますので、事前に資格取得に対する意欲や適性について考える機会が必要なのではと感じました。

＜今後の目標や展望＞

実習は資格取得のモチベーションに大きく関わり、実習指導者としては業務に対する日頃の姿勢が問われる機会でもあります。担当時は毎回自分の未熟さを痛感していますが、仕事の中で社会福祉士のつながりに助けられたことが多々ありますので、今後も微力ながら自分の業務と実習生に真剣に向き合い、意欲ある社会福祉士の誕生に協力していきたいと思います。

リレーエッセイ～リレー形式の寄稿～

「心の灯火を消さない」

三　浦　香津美（長野保健福祉事務所　福祉課）

コロナ対策のために仕事の状況が一変。入院中の生活保護受給者さんには１年以上会えておらず、ささやかに続けてきた動機づけ面接法の学習会は、集まって学ぶことが難しく「コロナが終わったらきっとやりましょう」と仲間と言い合って止まっている。それでも福祉の現場でやりたいことを心の内に持ち続けたいです。

障がいを持った親子の子育てを支援したい。障がいがある時に、「働くこと」には就労支援があるし、事業所のように働く場もあるように、「子育て」が困難だったら支援を受けられるし、親子一緒に頼れる駆け込み寺（居場所）のような場があるといい。

親が子育てに困り、子どもの育ちが危うくなって、お互い苦しんでいる親子を「虐待だ」と非難するだけでは、親はさらに自信を失くし、子どもはさらに不安になって辛いです。離乳食が作れなければ離乳食を、園に送れないのなら移送を、しつけが困難なら一緒になって子どもに声掛けする…かけ違った親子のボタンをひとつ直して徐々に噛み合っていくように、虐待に進んで行かないように予防したい。ハイリスク親子に専門職が継続的に関わっていくナース・ファミリー・パートナーシップのような。養育訪問支援事業やヤングケアラーの家事育児支援など、拡大することで親子の力が引き出される仕組みが沢山あります。心の灯火を消さないよう、日々の仕事に向き合いたいです。

＊次号は、**長野県立総合リハビリテーションセンター　瀧澤　宏直さん**にバトンタッチします。

南信地区学習会

生活援助従事者研修とは　～人材育成について知ろう考えよう～

藤　森　洋　子（諏訪市社会福祉協議会）

今回は、福祉従事者の養成研修として実施されている生活援助従事者研修について知りたいという会員の声から、実際に生活援助従事者研修を開催されている富士見町社会福祉協議会の進藤隆一会員より説明を受け、その後意見交換を行った。

介護職員初任者研修が130時間であるのに対し、生活援助従事者研修は「生活援助中心型のサービスに従事する者の裾野を広げるとともに、担い手の質を確保できるようにするため、生活援助中心型のサービスに従事する者に必要な知識等を習得すること」を目的に、59時間の研修を行うこととされている。富士見町社会福祉協議会では３年前より実施されており、研修終了後、さらに学びを深めるように介護職員初任者研修の受講につながる人もいるということだったが、多くの受講生が地域にいることで、地域の支えあいの質の向上につながっているということだった。

講師の多くは富士見町社会福祉協議会の職員が務めているということで、研修の前には講師向けの講義も実施しているということだった。

参加者からは、生活援助従事者研修実施への詳しい内容や研修参加者についての質問や、職員が講師を務めることで職員の学び直しにつながるということについて話が出され、福祉の人材育成について考える機会となった。

今後の予定

最新の予定は、本会ホームページ（https：//nacsw.jp）をご覧ください。

日　時(曜日)	事　業　名　・　研　修　名	会　　場	備　　考
11月７日㈰	第４回理事会	オンライン	
12月５日㈰	重症心身障がい児・者シンポジウム	オンライン	

◎ 入会状況（2021年９月末現在）　＊会員数：1,206人　入会率：26.85％　人口10万人あたりの会員数：57.79人

編集後記

寄る辺もなく、生きる場所も理由も見失い、途方に暮れるその人のもとへ駆けつける。頭は冷静にして高速回転、心は燃える備長炭。知識と感性を駆使して最前線に立つ。あくまで脇役に徹し、愚直に支援をリレーする。人が暮らし合う様々な場所で場面で、毎日静かに、しかし確実に小さな変革を起こし続けているその姿はまさに士（サムライ）。社会福祉士としての熱いＤＮＡが次の走者に注がれ、脈々と受け継がれていく社会福祉士会。そんなことを考えていたら、ふとBrian WilsonのLove and Mercyが頭の後ろを通り過ぎました。　（O.T）